

## 第6回 富士見市文化芸術振興委員会議事録

日 時	平成30年8月6日（月） 18:30～20:00						
会 場	鶴瀬コミュニティセンター 第3集会室						
出 席 者	加藤	氣賀澤	高野	上川	吉川	野村	岡島
	○	×	○	○	○	○	×
	水野	肥田	関（知）	田中	長坂	関（仁）	渡邊
	○	○	○	×	○	○	○
	事務局：地域文化振興課 中嶋課長、佐藤、武井						
1	開 会						
2	委員長挨拶 加藤委員長						
3	議 事						
	協議事項については下記のとおり。						
	(1) 基本目標3「活かす」について						
	委員) 施策の柱②について、(3)で文章中に「商店会」とあるが、現状商店会自体が衰退しつつあり、活発に動いていないがどのように取り組もうと考えているのか。						
	事務局) 駅コンなど、生活に身近な場所で文化芸術に触れられる機会の創出が重要だと考えている。集会所や商店会の空き店舗などより市民に身近な空間でのイベントの開催を検討したい。そのためには、商店会との連携も必要になってくる。その際には、商店会と連携をしながら進めていくことから残したいと考えている。						
	委員) 鶴瀬駅の西口の駅ビルに入っていたりそな銀行が空きスペースになっている。市内で市民主催のコンサートが先日行われたが、満員でスペースに困っているほどだった。この空きスペースになったところで、コンサートなど行えないのか。						
	事務局) 鶴瀬駅西口については、マンションもあり、駅長から演奏等のイベントについては実施が難しいという回答をもらっている。しかし、それでもうできない、というわけではなく、駅周辺を含め空いたスペースでコンサート等の試みができないかは引き続き検討していきたい。						
	委員) 施策の柱③について、(2)の予約システムの導入はされても使い勝手やエラー等で困っているという声をよく聞く。それについてはどう考えているか。						
	事務局) 取り組みの方向性で削除しても、引き続き担当課ではご指摘の部分については改善の検討を行っていく。事務局としても、このような声があることを庁内委員会等で説明していく。現在、このシステムの課題については各施設に話を行っており、今後は改善に向けた話を進めていく予定である。						
	委員) 同じく施策の柱③の(2)について、システムで予約できるようになり、						

施設の利用者と施設の担当者が窓口で顔を合わせる機会が減った。結果、施設が単なる貸館のようになってきてしまっていると感じている。

事務局) ご指摘のとおり、システムの稼働によって職員、市民同士が顔を合わせて話す機会は減ったかもしれない。公民館等を利用する人同士が交流する機会として公民館祭りなど継続して行っている。その他、職員による窓口での声掛けなども引き続き行っていく。システム稼働により便利になった部分もあるので、それを活かしつつ、上記のような取り組みによりフォローしていきたい。

委員) 市役所内の議場について、議会が行われていない時や議会開催前にコンサートなどを開催できないか。

事務局) 過去にそのような相談をもらったこともあり、実際に他市では議場コンサートの実績もある(ふじみ野市など)。相談をいただいた際に、議会事務局にも相談したが、音響や設備の問題もあるため、開催するためには研究する必要がある。

## (2) 基本目標4「支える」について

委員) 施策の柱①について、新しい組織の立ち上げに行政がどのような形で支援するのか。特に場所取りやチケットの販売など。経済的な支援も必要だと考える。

事務局) まずは相談体制の充実を考えている。公民館や交流センターで市の職員に向けた勉強会などもおこなっている。財政的な支援については、一定の線引きなど内部での検討が必要。

委員) 自分自身が市内で活動していて、一番大変なのは場所取り。キラリ☆ふじみや行政が年間でいくつか抑えておき、演出者を募る方法もいいのではないか。

事務局) 現状、キラリ☆ふじみは稼働率が90%程度で、近隣市町村の文化会館と比べても、高い稼働率を誇っている。しかし、それゆえに予約が取りづらいなど市民の方々にはご不便をおかけしてしまっている部分もあると認識している。市としても、何らかの形でこの課題について検討をしていく必要がある。

委員) ももいろクローバーZの市内コンサートや歌舞伎等、大きなイベントを市が開催していくことも大事だと思うが、地元で文化芸術活動をしている人たちへの支援も必要ではないか(場所の提供)。

委員) キラリ☆ふじみの予約は本当に難しい。メインホールとマルチホールで65団体が予約に殺到している状況。

事務局) キラリ☆ふじみの予約については、市外の団体も受け入れており、予約団体も多い。引き続きどうしていくかはキラリ☆ふじみと検討していく。

委員) 喜劇「マリーツァ」という舞台では、富士見市教育委員会が後援になっているが、補助金などの支援があると思われる。このように市内で行われる素晴らしい文化芸術について行政が財政的な支援ができるように方法を考えてほしい。市内でプロを育てるチャンスでもある。

事務局) 後援は申請をしてもらえれば、市や教育委員会の後援はできるが補助金がでていないわけではないと思われる。先にお伝えしている通り、財政的な支援の判断には一定の線引きが不可欠だと考えている。文化振興基金の活用で検討していく。

委員) 市内では多くのすばらしい文化芸術活動が行われている。そういった事

業に対して市は支援をしていくべきだと考えている。継続して行われているものも含め、市は市民団体が行う事業に予算を出していくべきではないか。

事務局) 今後、基金の活用も含め、引き続き残りの5年間でできるだけ多くの市民(団体)を支援できるようにしていきたい。

委員) 先日の会議でメセナ活動についての話があったが、基本目標4「支える」にもメセナ活動の考えを入れてはどうか。

また、議論を聞いて、富士見市のアート・マネジメントの方向性が決まってくるといいのではないかと感じた。(※アート・マネジメント: 多様化する芸術・文化事業に対して、作品制作、設置・展示といった作業から、展覧会企画、作品売買および著作権管理、作家のマネジメント、広報・宣伝、経理といった業務を行うこと。メセナ活動や行政の文化施策など。)アーティストは富士見市民で施設等については市外とするのか、文化芸術活動の活動場所を市内にこだわるのか、そのどちらなのかによって議論の方向性が変わってくるのでそれを決めるのはどうか。

事務局) メセナ活動については、本文中に追加できるかどうかも含めて検討する。また、2つ目のご提案については、場所の課題の議論でもあったが、開催場所等についても今後検討をしていく。

委員) 現在、キラリ☆ふじみでは芸術監督の選考が始まっているところだが、市民に向けキラリ☆ふじみの方向性を示していくべきではないか。

事務局) 新しい芸術監督が決まったら、キラリ☆ふじみの方向性も多少変わってくる部分もあると思う。

市民に対しては、情報発信方法等検討していきたい。

### (3) 今後の会議について

次回、計画内の本文の見直し案と併せて、計画の修正(案)をご提案することとした。

4 閉会 加藤委員長

以上